

第 1 回検討部会における意見等（新型コロナウイルスの影響）

- グリーンリカバリーの視点は必要である。経済対策などで区民や区内事業者に接触する機会が機会を生かして、例えば気候変動対策の情報を併せて伝えるなどもある。あとは、例えば補助金を出す際に、TCFDなどの情報開示を求めるまでハードルを上げなくても良いが、なんらかの情報開示を求めるなどできないか。気候変動どころではないという感覚の事業者もいると思われるため、気候変動対策をしながらニューノーマルに移っていくことが重要であるということを今アピールしていく時期にある。
- 他自治体から清掃員が暑い中作業をする際に、コロナ対策としてマスクをしなければならないことについて、熱中症に気をつけるにはどうすればよいかというような問合せがあった。このような生活形態の変化が今後どう影響を及ぼすのかといったところも少し視野を広げながら、適応策や温暖化対策あるいはヒートアイランド対策などを検討する必要がある。
- いろいろな企業が働き方を変える動きがあるが、企業によって考え方が異なってくることにどう対応していくかが今後課題になってくると考える。
- 建築の分野で換気量の議論がある。例えば都市エリアの保育園などにおいて、周辺環境の問題で窓開け換気もできないというところがあり、そのようなところへの対応も適応策的なところでやっていく必要があるのではないかと感じている。
- 建築について、これからは多様な形が出てくると感じている。建築分野はいろいろな条件が揃っているため原単位で比較可能だったが、その前提がいろいろ分かれてくると評価が難しくなる側面がある。車などは走行距離をエネルギー使用量で割ると燃費になるが、建築におけるパフォーマンスをどう測るかということも含め、前提や評価軸をどう揃えていくのか、比較の方法は研究課題でもある。
- テレワークが主体になると自宅の光熱水費がかなり上がる。これまでは民生家庭部門と業務部門という括りだったが、家庭部門の扱いをどうするか。
- BCP ではないが、何を大事にして、他はリスクがあっても受け止めざるを得ない。おそらく災害時になったら究極の選択でやらざるを得ないのではないかと。
- 非常時や通常時でリスクを分けて考えることがすごく重要になってきている。どのような尺度で判断するのかを行政は持たなければならないような気はしている。非常に難しい選択だが、何らかの基準を設けてやらざるを得ないのではないかと思っている。